

府中市生涯学習審議会（平成26年度第3回）会議録

1 日 時 平成26年6月23日（月）午後3時～5時

2 会 場 府中駅北第2庁舎 4階会議室

3 出席者

(1) 委員13名（50音順）

石田和男委員、井上治男委員、大谷久知委員、川内清文委員、木内直美委員、
茂田嘉彦委員、設楽厚子委員、芝 喜久子委員、鈴木映子委員、
田野倉晴美委員、寺谷弘壬委員、三宅 昭委員、山内啓司委員

※小林 繁委員、澤井幸子委員は欠席

(2) 職員3名

矢ヶ崎生涯学習スポーツ課長、目黒学習推進係長、大木事務職員

4 開会

5 連絡事項

(1) 配布資料の確認

- ・平成26年度第2回会議録（案）
- ・平成26年度平和啓発事業「平和展」チラシ
- ・生涯学習だより

(2) 前回議事録の確認

前回会議録（案）について、一部修正し、市民に公開することが了承された。

6 協議事項

[意見の趣旨] ■：委員 ➡：事務局

(1) 諮問事項の検討について

- まずは、学校開放の促進、青少年地域活動への支援やそれに関連することについて、ご意見いただきたい。
- 学校開放は校庭など使っていると思うが、教室は開放しているのか。
- どの市立小中学校でも校庭、体育館は開放している。使用しているのは、主にジュニアスポーツ団体である。本宿小学校も剣道の団体に貸し出しをしている。教室も原則的に開放の対象にしているが、機械警備の作動を解除する必要がある、他の教室の出入りが自由にできてしまうため、セキュリティの都合上、職員がいる平

日の昼間以外の時間帯に開放することはほとんどない。

現在、府中市では、地域プールを廃止して学校のプールを市民に開放することで代替してはどうかという議論があるようだ。夏休期間中に自校の子どもたちを対象にすでにプールの開放はしているが、お盆は開放していないし、経費の制約もあるので、今は期間中に12回しか開放していない。開放していない間も水を循環させて衛生管理をしているので、もったいないと思う。

- 体育館や校庭を開放しているということは、主にスポーツのための開放であるようだが、セキュリティの問題もあると思うが、文化団体も使えるような開放をしていただくと活動が活発になるのではないかと思う。
- ➔ 実態としては主にスポーツ団体が使用しているが、文化団体への開放もしている。中学校の武道場ではダンスやよさこい、音楽室では和太鼓を練習していたり、陶芸窯を使用している団体もある。
- 使い方のルールとしては、届け出ていないと使えないのか。
- 開放団体に登録をして、各学校で行われる調整会に出席しなければならない。
- 体育館や校庭の管理はどこがしているのか。
- 現在は副校長が利用団体の管理をしていることが多いが、実際は団体の責任者に鍵を預けて、自主的に利用させている場合が多いと思う。
- 体育館と校庭は管理しやすいと思うが、教室の開放を進めるのは難しいと思う。現に教室の開放をしている事例がほとんどないのに、なぜ教室開放することになったのか、その経緯が分からない。公民館などの施設がないわけではないにも関わらず、学校を使うということの理由は何か。公共施設の見直しで施設は縮小傾向にあるが、市民の学習意欲は向上しているので、施設についての施策は実情と相反しているのではないか。
- 陶芸窯や防音設備が整っている音楽室などは他の施設はあまりないので、そういう活動をしている団体には使いやすい。学校は活動内容によっては利用価値があると思う。休日の校舎の開放は職員が出勤していないので、ハードルが高い。
- これからグリーンプラザが閉鎖すると聞いたが、稼働率の高い貸館がなくなると今使っている団体はどこかへ流れていくので、そういう時に学校開放が必要になると思う。
- 現在工事中のA地区にできる建物の中に新しくできると思う。
- 文化センターの朗読の会をやっているが、会場をとるのが難しいと聞いている。もしセキュリティの問題があるとすれば、全ての学校を開放しなくても1校だけに絞れば管理もしやすくなると思う。
- 仮にグリーンプラザが使えなくなっても他施設を使えば何とかなるが、それまで

使っていた場所とは異なるので、利用者としては色々な不便もあると思う。団体によっては、学校だけを活動場所に行っている場合もある。

- 学校施設は無料なのか。
- 無料である。
- 利用が多い文化センターを使っている方々は、予約が取れず不便が生じるので、そういう地域性も鑑みて、開放することを考えても良いと思う。
- 青少年地域活動への支援という意味でも学校を居場所づくりに活用できるかもしれない。
- プールは夏休みに12回開放するのか。
- 昨年までは15回開放していたが、今年は12回に減ってしまった。指導員の手当の関係かと思う。
- そうすると使っていない期間を市民に開放することは考えられるのか。
- 学校プールの市民開放について色々検討しているとは思いますが、水質を維持したり、それなりの金額がかかると思う。
- 土日には管理費が余計にかかるので、そこも考えなければならない。実際に施設が足りないのなら、学校だけでなく広い範囲で考えなければならない。
- ➔ 府中市では、全庁をあげて公共施設マネジメントに取り組んでいる。公共施設マネジメントとは、府中市の人口規模や財政規模に応じた形で、公共施設の総量の適正化を図り、全体をどう維持していくかをマネジメントしようとする取り組みである。先日、地域プールの縮小方針が新聞で掲載されたが、まだ学校や教育委員会との調整もしていない段階なので、正式に決定した事実はない。グリーンプラザ閉鎖の掲載もあったが、同様に決定していない。公共施設マネジメントの取り組みは、まだ不確定要素が多い段階で報道が先に出ってしまった。

学校開放については推進しても良いと思う。多摩市は学校の統廃合で使われなくなった校舎を社会教育施設として使用している。教育基本法には学校を開放するよう努めることと定められている。

- 予算面等で制限はあるが、どうしていけば良いかを考えれば良いと思う。
- こうありたいという意見を提言していけば、行政にも考えていただけたらと思う。
- 青少年地域活動への支援ということで、中央図書館にYA（ヤングアダルト）ルームというのがあるが、そこではどのようなことをしているのか。何人か高校生くらいの子たちがいるのは見かけるが、中で何をしているのかが分からない。
- ➔ YAは小学校高学年から高校生を指している。その世代を対象とした小説や文庫本を収集する活動を中央図書館に限らず行っている。かつての宮町図書館に比べると、中高生向けの図書がかなり充実している。

- YAルームは、ほとんど使われていないと思うが、中高生が話をしたり本を読んだりするためにあるようだ。
- 中高生の居場所になっているが、実際にどう使われているかは分からない。
- ➔ 平成24年度実績では、YAルームでは高校・大学学校案内の展示、職場体験中学生による手作り装飾、お薦めの本の展示をやっていた。また、子ども読書を推進する法律もあるので、日本中で青少年世代の読書を推進する政策が行われている。
- 前から青少年の居場所がないと言われていたが、武蔵野市立「武蔵野プレイス」は図書館や貸館がある施設であり、子どもたちの居場所を作ろうということで、地下に子どもたちしか入場できない部屋もある。そういう場所は府中市にはないので、中高生は文化センターが使えないからと街灯の下などで、セリフを覚えたりやダンスの練習をしたりするなど健全な活動をしている。文化センターか学校開放で何かやれる手立てはないか。
- 文化センターのロビーで20分ほど話をしていたら、ここは話をする場所ではない、他の人の迷惑になると注意されたことがある。長時間かかる場合は部屋を予約する必要があると思うが、少し話をしたいときに、座る場所がないと感じる。
- 文化センターに児童館が基本的にあるのか。
- ➔ 必ずある。
- 児童館が使用できる年齢はいくつか。
- ➔ 明確な取り決めはないが、基本的には小学生から高校生まで。
- 児童館は子どものためで、子育てしている親も一緒になって活動はしないのか。子育てに悩んでいるお母さんも多いと思う。
- くるるの中にある子ども家庭支援センター「たち」や児童相談所で相談できる。
- ➔ 児童館職員という臨時職員が常時いるわけではないが、工作や折り紙を教えたりしている。
- 中高生の居場所がない気がする。乳幼児はたち、小学生は放課後子ども教室、児童館など居場所があるが、中高生がどこに行けば良いのか。今から新たに居場所を作らなくても良い。今ある児童館を高校生まで使えるよう、もう少し柔軟に使える場所にしても良いと思う。中高生が児童館などに来ると地域での行事内容がわかるようになるので、後々、地域の活動にも繋がっていく。また、中高生たちにとっては、行きたいときに予約なしで行ける場所が必要だと思う。
- 青少年の地域活動への支援とはどのようなものか。
- ➔ 青少年団体の活動に奨励や援助をしており、青少対やボーイスカウト、ガールスカウトなどの青少年団体に施設使用料の減免や資金援助をしている。
- 子どもも組織の中に入っていれば、行く場所があるし、活動する友達もいるので

良いと思う。そういうものから外れている子どもの居場所がない。文化センターの児童館は午後4時半までしか使えないので、青少年のために午後8時まで開放してもらえば、青少年が集うことができる。施設の管理上、問題がなければ、そういうことも考えてもらった方が、子どもたちのためになると思う。

- 青少年団体の施設利用と、青少年が自由に集えるような居場所づくりを今後も深く検討していく余地はあると思う。
- 中高生は大人から規制されることを嫌う年代なので、気軽に集える場所であってほしい。よくコンビニの前に長時間座って話をしたり、携帯電話をいじっている子どもを見かけるので、そういう子どもたちでも自由に出入りできるような場所があると良い。公民館を出入りしていれば、今後、公民館に足を運ぶきっかけにもなるのではないかな。
- 武蔵野市立「武蔵野プレイス」の子どもしか入れない部屋では、中で何をしているか分からないが、自由に使って良いという場所であった。
- 調布市市民プラザ「あくろす」はもう少し自由だった。それとなく監視しながら、若者たちに場所を提供していた。とても良い使い方だと思ったが大変難しいと思う。府中公園では、花火を上げたり、騒がしくしている子どもたちがいたので、公園にあったベンチがすべて外されてしまった。場所を与えるというのは重要かもしれないが、全く監視をしないというのは難しいと思う。
- 居場所を作るのに色々なことを考えていかなければならない。ここではっきり決める必要はないので、最終的に判断していければ良い。
- 在宅学習については、個別に対応することなので大変だと思う。実際に対応できているのか。
- ➔ 生涯学習スポーツ課での在宅学習は、講座を撮影したものを貸し出しするというものである。メディア自体は一般市民にあまり使われなくなってしまったこともあり、ビデオ撮影も平成20年度以来していない。現在は図書館でDVDの貸し出しをしていることが多い。
- どのくらいの需用があるのか実態が分からない。また、DVDになってからの貸し出しはあるのか、その資料づくりから始めなければならない。
- 中央図書館での図書の貸し出しは約112万冊と相当数貸し出しをしている。障害のある方のニーズも掴んで充実させていかなければならない。
- 学ぶ姿勢がある方はどこまででも求めていく。
- これから高齢社会になっていくと、行きたくても行けない方が増えていく可能性がある。電話で注文して届けるという機能も必要になるのではないかな。
- 図書館に車いすスペースはあるのか。

- はい。
- サービス業のように、高齢者の方たちが本を届ける支援団体を作り、ボランティアセンターなどに登録して活躍してほしい。
- ケアをする人たちが対象者に、どのような在宅学習ができるか、情報を与えられるかが重要である。
- 老人会では見回りをしているが、その際に図書配布をするのも良いと思う。見回りを兼ねたサービスが、今後は多くなるかもしれない。法的な機関でやると人的費用がかかるが、サービスできる地域が交代でやると有効活用できる。
- 自治会の方にも協力してもらえよう呼びかけなければならない。
- 現在、当番ができないからと自治会を抜けている高齢者が多い。本来は自治会の回覧板などで情報交換できるが、自治会に入らないと回覧板は回ってこないの、文化センターなどに行って情報を見るようだ。
- なぜ高齢化して抜けてしまうのか。
- 本来は民生委員と自治会長や役員で見守りたいが、高齢者世帯があまりに多いため、現状は難しい。自治会費はたいしたことはないが、順番に役員が回ってくるのが辛いようだ。
- 私の地域の自治会では、役員ができないと言ってもらえれば役員が回ってこないように考慮している。前に役員をしていた方が、自分で集金に行けないので、シルバー人材センターに頼んで集金してもらっていた。そこまでして役員をしてもらわなくても良いと思い、そのような体制でやっている。
- 厳しい自治会もある。
- 府中市は近隣市と比べると自治会への加入率は低くない。以前はごみ箱があり、その掃除当番が順番で回ってきていたことと関連するようだ。
- そういう当番もなくなり、ごみの収集も有料化されたので、なおさら気分が楽になり抜ける方が増えてきた。
- アパートに住んでいる若い人は、ほとんど自治会に入っていない。ごみ箱の掃除はなくなったが、くらやみ祭の時はカレー炊きに動員されたりするので、あまり入りたがらない。
- 災害の時に一番困ると思う。地域を把握できていないと、インフラが普及しない期間は自分たちの責任で過ごさなければならないので、見守ってあげないとならない。
- 急速に高齢化してしまった。高齢者が増えたばかりでなく、出生率が低くなったので極端になった。
- お年寄り自分たちで得策を考える時代になってきた。介護支援センターで歌を

歌ったり、会話したりという活動を4か月続けて自主サークルを作った。これからどうしようとなったときに、介護支援センターや一人暮らしの方をカバーしてあげたり、居場所が必要であれば空き家を利用してほしいと思う。

- 府中市では空き家が多くなっている。
- 固定資産税を免除してもらえば、お年寄りもやる気になるかもしれない。
- 空き家の活用は難しいのではないか。
- 世田谷区に見学しに行ったが、空き家を利用して手芸や料理教室をしたり、会場費を払ってもらって展示会をしていた。住宅街ならできるかもしれない。
- 公的機関がやると信用度が違う。
- 遠くに行くのは苦になってくるので、近くでできるのが良いと思う。
- 4か月間受講した講座を後押ししているのは財団法人であった。体操などの講師は財団から派遣されて来て、準備をするのが包括支援センターの職員であった。そこで自主サークルを立ち上げて、包括支援センターを無料で貸してもらっている。

7 その他

(1) 小委員会委員の選出について

次のとおり、小委員会委員が決定した。

三宅 昭委員、石田和男委員、木内直美委員、茂田嘉彦委員、寺谷弘壬委員

(2) 次回の審議会について

▽第4回生涯学習審議会

日時：7月28日（月）午後2時～4時

会場：府中駅北第2庁舎 4階会議室

以上